

よもやま歴史教室

2025

さまざまな歴史を学習することにより、心に栄養を与え、豊かに生きるヒントをみつけていただきたい。
皆様、ぜひご参加ください。

第 1 回

令和 7 年

5 / 17 (土)

午後 2 時 ~

土方雄久公一代記

講師 歴史研究家 ひらお えいじ 平尾 栄滋 先生



第 2 回

6 / 21 (土)

午後 2 時 ~

織田水軍の将 九鬼嘉隆と九鬼水軍

講師 鳥羽市教育委員会 文化財専門員 とよだ しょうぞう 豊田 祥三 先生



第 3 回

7 / 19 (土)

午後 2 時 ~

高須藩と高須四兄弟

— 幕末維新における高須四兄弟の活躍 —

講師 郷土史家・海津市歴史民俗資料館運営委員 おおの まさしげ 大野 正茂 先生



【会 場】 菰野町庁舎 4 階会議室

※東玄関よりお入りください。

【受講料】 各回 200 円 (高校生以下無料)

■当日受付にて、住所、氏名、連絡先をご記入ください。

※講演内容等は、予告なく変更となる場合がございます。

※天候等諸事情により中止や変更となる場合があります。

中止等となる場合は、菰野町役場 HP、防災ラジオ等でお伝えいたします。

各 回
詳 細 は
裏 面 へ

令和 7 年

5/17(土)

午後 2 時～

講師 歴史研究家 平尾 栄滋 先生

講師紹介

1967 年愛知県立一宮高校卒業、1972 年名古屋大学工学部卒業、1972 年三菱自動車工業入社三菱パジェロの開発設計に従事、2002 年『自動車の高性能化』（山海堂）刊行、2014 年名古屋城の外国人向けボランティアガイド（英語）、2018 年『徳川家康という男』（郁朋社）刊行、2019 年『日本という国～古事記の中に日本人の源流を探る～』（郁朋社）刊行、2022 年『浅野長政・関ヶ原の戦いを仕組んだ男』（郁朋社）刊行、2025 年現在歴史家として「徳川家康」「浅野長政と関ヶ原の戦い」「世界中から愛される国・日本」のテーマで、歴史同好会、市民団体、小学校にて講演活動中。

土方雄久公一代記

講演要旨

江戸時代、伊勢国三重郡（三重県三重郡菰野町）には外様の菰野藩があった。三重郡と近江国に所領を持ちながらもその石高はわずかにして 1 万 2 千石、藩主の居宅兼藩庁は城とは言えない小さな陣屋ではあった。初代藩主の土方雄氏は徳川 2 代将軍秀忠に仕えて菰野の地を与えられ、以来その家は明治の時代に至るまで 13 代にわたって存続している。

遡って世は戦国、雄久の土方家は尾張国海東郡と愛知郡の境目あたりに住まう土豪であった。父の信治が幼い頃、のし上がる織田弾正忠信秀が近隣の愛知郡古渡に進出し城を築いた。それが古渡城である。それを機に、土方家は信秀に臣従し信治はその小姓となった。その後、織田信秀の手で元服しその名の一字を与えられ信治と名乗った。以来、信治は信秀嫡男の信長に近侍し、子の雄久は信長 2 男信雄の近習とされる。土方家は親子二代にわたって織田家当主の身近に仕え、限りない忠節を尽くしてきた。

本講演では、このような土方雄久と織田信長、信雄父子との交わりを軸にして雄久の忠勤ぶりを語りたい。

6/21(土)

午後 2 時～

講師 鳥羽市教育委員会

文化財専門員 豊田 祥三 先生

講師紹介

1975 年生まれ。
立命館大学文学部日本史学専攻卒。
現在、鳥羽市教育委員会生涯学習課に文化財専門員として勤務。専門は考古学。
主な著書は『図録 九鬼嘉隆-戦国最強の水軍大将』（鳥羽市教育委員会）2011 年、中世武士選書 48『九鬼嘉隆と九鬼水軍』（戎光祥出版）2023 年がある。

織田水軍の将九鬼嘉隆と九鬼水軍

講演要旨

九鬼嘉隆は、戦国時代に織田信長や豊臣秀吉のもとで水軍の将として活躍した人物です。九鬼氏は当初は志摩の小勢力の一つに過ぎませんでしたが、嘉隆の活躍により、志摩一国を治める大名にまで伸長しました。

嘉隆といえば、信長に命じられて建造した「鉄甲船」6 艘を駆使し、天正 6 年の第二次木津川口の戦いで毛利水軍を打ち破り勝利をおさめたことが良く知られていますが、その生涯についてはよくわかりませんでした。しかし、近年の研究により徐々にその詳細が明らかになりつつあります。講座では、嘉隆と信長との関りや九鬼氏の活躍した要因などについて紹介します。

7/19(土)

午後 2 時～

講師 郷土史家・海津市歴史民俗資料館

運営委員 大野 正茂 先生

講師紹介

1962 年名古屋市生まれ。
先祖の出身地である岐阜県海津市にかつて存在した尾張藩の支藩である高須藩に関する研究を行っています。研究の成果は、著作にて発表の他、美濃文化総合研究会会誌「美濃文化」、岐阜県郷土資料研究協議会会誌「郷土研究 岐阜」、名古屋郷土文化会会誌「郷土文化」等で発表しています。また、X（ツイッター）、ブログ「松風園文庫 高須藩への招待」でも高須藩や周辺諸藩について情報発信しています。

（主な著書）

「高須藩人物略誌1994」、「美濃高須藩家臣史料2014」、「改訂 高須藩人物略誌2015」、「稿本 高須藩年表2018」、「高藩雑話－美濃高須藩史余滴－2018」

高須藩と高須四兄弟

―幕末維新における高須四兄弟の活躍―

講演要旨

幕末維新史において、名を残した美濃高須藩出身の高須四兄弟。十四代・十七代尾張藩主となり、第一次長州征伐の征討軍総督、新政府議定となった次男徳川慶勝、十一代高須藩主・十五代尾張藩主・御三卿一橋徳川家を継ぎ、将軍徳川家茂より、信頼を得て、将軍不在時の江戸留守居を勤めた五男一橋茂栄、会津藩主として京都守護職となった六男松平容保、桑名藩主として京都所司代となった七男松平定敬は、幕末には、それぞれ中央政局にかかわり、維新时期には、新政府側と旧幕府側とに立場を別にして行動しました。

今回の講演では、高須四兄弟を生んだ高須藩とはどのような藩であったのか。そして四兄弟の人物像と幕末維新期の活躍について、お話ししたいと思います。